



全日本自治団体労働組合
北海道本部
〒060-0806 札幌市北区
北6西7 北海道自治労会館
電話 011-747-3211
FAX 011-700-2053
編集・発行 渡部 裕幸

安倍政権は9月3日の内閣改造で、5人の女性を登用した。「女性の活躍」の「明言」を实践しようだが、保守的・右派的な女性が入っても「戦争できる国づくり」は止まらない。平和闘争を強化し、「暴走する政治」を止めよう。

朝風

朝日新聞社・木村社長が記者会見し「吉田調書」慰安婦報道を巡る誤報を謝罪した。公正の原則を守り、取材に努め、それを証明し立ち直してほしい。しかし、政府の顔色をうかがいながら偏った報道をすることは絶対に許されない。

本号の紙面

- 2 徹底解説！2014給与改定と「給与制度の総合的見直し」に係る今後の課題
- 3 留萌・宗谷地本合同教宣学習会、道書記評総会、チャレンジ！チルドレン・ファースト（最終回）、職場だより（上川地本発）、あいくみの国会だより③、忙中余話
- 4

『道人勸を尊重』に終始

地公三者人事委員会・副知事交渉

9月16日、地公三者共闘（全道庁・北教組・道本部）は、前回交渉（9月9日）からの再検討状況について、人事委員会（事務局長）と副知事交渉を実施した。副知事交渉では「道人勸を尊重する」とを基本に対処する」とした極めて不満な回答に終始した。

人事委員会交渉で事務局長は、①人事委員会勸告にむけ月例給の公民較差や民間の一時金の支給月数について最終的な精査をしている、②給与制度の総合的見直しに際しては、人事院勸告の趣旨や総務省の「地方公務員の給与制度の総合的見直しに関する検討会」の中間報告なども踏まえ、引き続き、検討を進めていくなどと回答した。地公三者は、月例給及び一時金ともに前回同様「精査」とする一方、国に準じて明確な回答がないことは極めて不満であり、改めて強く抗議するとともに、独自削減について停止勧告をすべきと、再検討を強く求めた。

副知事交渉では、8月25日に提出した要求書に対する考え方や人事委員会勸告に対する基本姿勢について検討と言及した。さらに、「給与制度の総合的見直し」における給料表引下げの必要性については極めて不満であり、改めて強く抗議するとともに、独自削減について停止勧告をすべきと、再検討を強く求めた。

副知事交渉では、8月25日に提出した要求書に対する考え方や人事委員会勸告に対する基本姿勢について検討と言及した。さらに、「給与制度の総合的見直し」は、将来の生活にまで影響を及ぼす極めて重要な問題だ。単段階の交渉を取り組むを強力に進め「見直し」阻止にむけ全組合員と一致団結しながら、取り組みを進めていく。

団結で『見直し』阻止

平和をつくるため立ち上がろう

北海道平和運動フォーラムは9月11日、「辺野古への新基地建設は許さない！9・11緊急集会」を開催し、170人が参加した。



緊急集会には170人が参加した＝9月11日、札幌市

「前大会」のDVD上映が行われた。その後、安次富浩・ヘリ基地反対協議会共同代表・辺野古テント村村長が、「沖繩・辺野古の今」と題し講演した。安次富浩さんは「安倍政権が臨時的制限水域としたため漁船なども自由に入れなくなり、カヌーなどで入っていくと海上保安庁に拘束された。県民世論が海上保安庁は無謀だと主張し、琉球新報も同じく報道した。世論調査では80%の人が反対している。世論が私たちに味方してくれる。民意に基づいたことが目標だ。抵抗運動で県民に

JICHIRO スケジュール

9月

- 22日(月) 第26回執行委員会 (札幌市)
- 24日(水) 道本部都市連2015年度定期総会 (札幌市)
- 道本部町村連2015年度定期総会 (札幌市)
- 25日(木) 道本部第56回定期大会 (～26日、札幌市)
- 26日(金) 第1回執行委員会

10月

- 4日(土) 許すな！泊原発の「再稼働」さようなら 原発北海道大会 (札幌市)

道本部ホームページ
自治労北海道 検索 ユーザー名: minnade
組合員専用ページは パスワード: danketsu2013

自治労北海道本部 第56回 定期大会

9月25日(木) 8:30 受付
9:00 開会

26日(金) 9:00 再開
16:30 閉会

ホテルポールスター札幌
札幌市中央区北4条西6丁目

STOP 再稼働!

「いつか」ではなく、「いま」止めよう

さようなら原発 北海道集会

10/4(土) 入場無料

札幌・大通西8丁目広場

- 11:00～ フリーライブ
- 13:30～ 集会
- 14:45～ デモパレード

主催/さようなら原発1000万人アクション北海道実行委員会
事務局/北海道平和運動フォーラム(札幌市中央区北4条西12) TEL.(011)231-4157

徹底解説! 2014給与改定と『給与制度の総合的見直し』に係る今後の課題

『総合的見直し』させない 給与改定は年内実施

人事院は、7年ぶりに俸給表の改善勧告を行った。民間給与との官民格差が0.27%であることを踏まえ、俸給表の改定を平均で0.3%改定するとして、一定評価できるが、高年齢層、特に50歳台後半層職員が在籍する号俸や再任用職員においては、引き上げ改定を行わず、現状維持に止まったことは不満内容だったといえる。一時金については、0.15月分引き上げ、年間4.10月に増額したことは理解できるが、0.15月分のすべてを勤労手当に配分したことは納得できるものではない。2015年においては、民間企業における夏の一時金の動向にもよるが、仮に現行支給水準を維持した場合は、今年以上に引き上げがなされなければ、一時金については官民の均衡がはかられているといえない。本号では2014給与改定と、給与制度の総合的見直しに係る今後の課題について徹底的に解説する。学習資料として活用してほしい。

◆政府の総人件費抑制方針と2014給与改定

「人勧見送り」「見直し」実施が想定される

政府は「2014給与改定」に対して、得本方針にある総人件費抑制方針との兼ね合いから、即座に完全実施を判断するとは到底考えられない。すでに勧告に伴う3,000億円を超える総人件費拡大が報道されている。閣議決定期が重要

閣議決定期が重要

閣議決定期にむけての情勢は、9月3日の内閣

◆『給与制度の総合的見直し』関係

俸給表を平均2%引き下げ

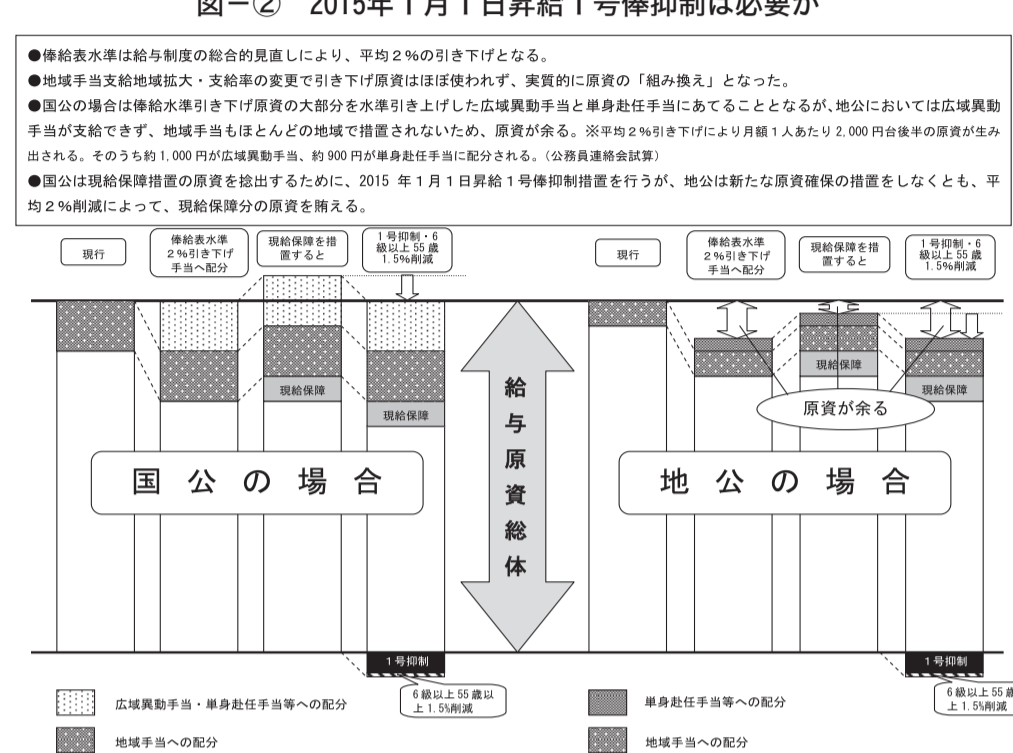
給与制度の総合的見直しにおいては、民間賃金の低い地域(都道府県別の平均賃金が低い方から12県)における官民の給与差が2.18ポイント(2012~2014年の平均値)あることを踏まえて、俸給水準を2%

国公は引き下げ分を広域異動手当で措置

広域異動手当は地域手当と併給調整されるが、俸給表を引き下げて生じた給与原資の約半分程度が広域異動手当として再

昇給号俸を一律1号俸抑制

当初、人事院は俸給表の引き下げに伴い、現給保障を措置すれば総人件費が減少しないこと、給与構造改革による現給保障の後退に苦慮した反



改定後、急遽、政府段階の検討が進み、給与法の改正案は10月上旬に開会する臨時国会の冒頭提案との動きもあり、9月中旬には閣議決定が濃厚な情勢だ。公務員連合会は、2014給与改定の早期決断を求め、2015給与改定の総合的見直しについては実施反対を求めているが重要となる。差額支給は「年内実施!」

広域異動手当、本府省業務調整手当引き上げ

地域手当の支給地域や水準の拡大をはじめとして、広域異動手当については、300km以上を6%から10%へ、300km未満は3%から5%へ引き上げた。また、本府省業務調整手当を係員・係長クラスに対して、4%およそ6

地公にも支給可能とすべき

広域異動手当に関して、都道府県内の国の官署間での異動でも支給のた成績上位者の昇給効果の見直し(A区分8号俸昇給↓6号俸、B区分6号俸↓5号俸)を2015年1月の昇給から適用しようとしていたが、各府省からの強い反発があったため最終局面で断念するところとなった。その

現給保障は「3年間」

このような経緯を踏まえて、見直し初年度の改正給与原資を確保するため、2015年1月の昇給について、1号俸抑制を実施することとなった。なお、公務員連合会の試算によれば、平均2%の引き下げにより月額1人あたり2,000円前後半の給与原資が生み

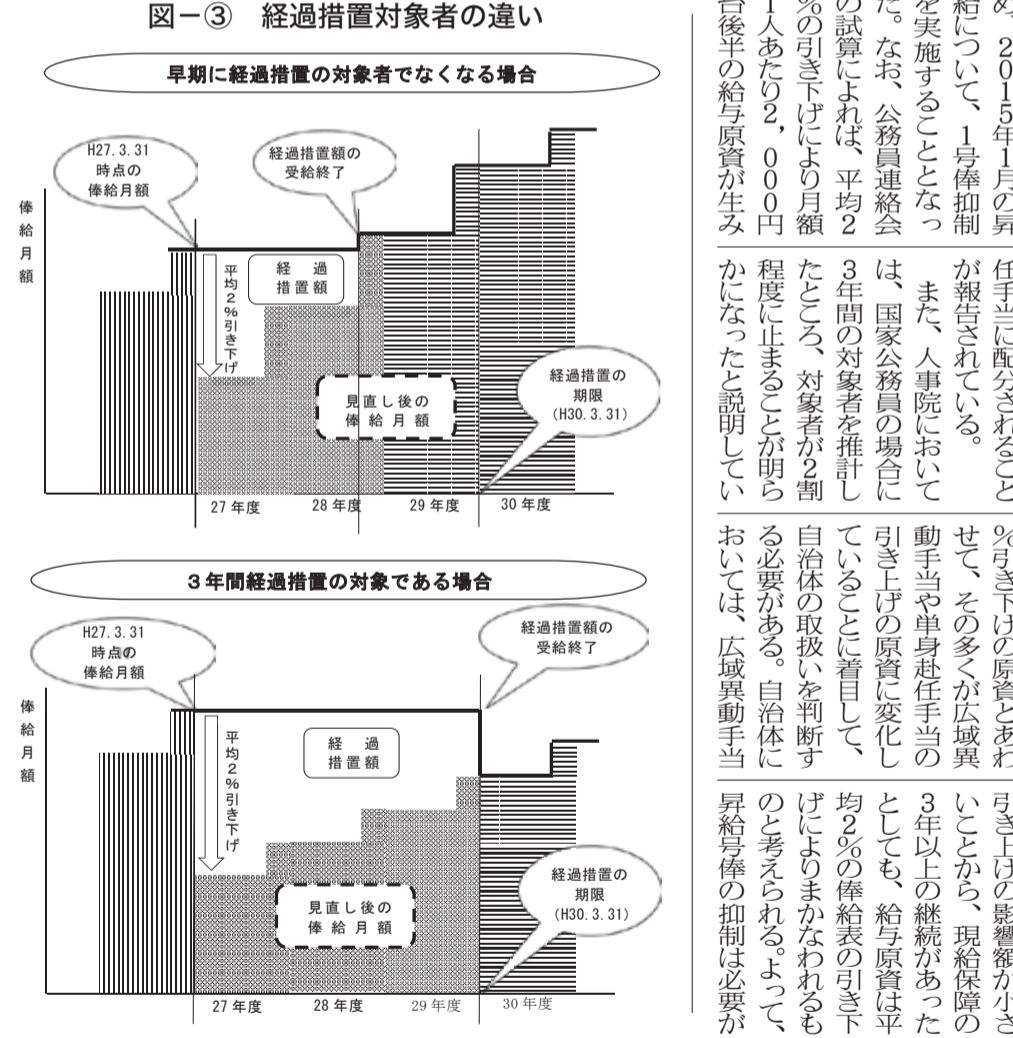


Table 1: Climate change and autonomous bodies (北海道的). Columns include: 自治体名, 平均最低気温, 最深積雪, 合併, 2010メッシュ等級地, 2004級地指定, 区分変化, 備考(変化の要因).

配分変更は極めて問題

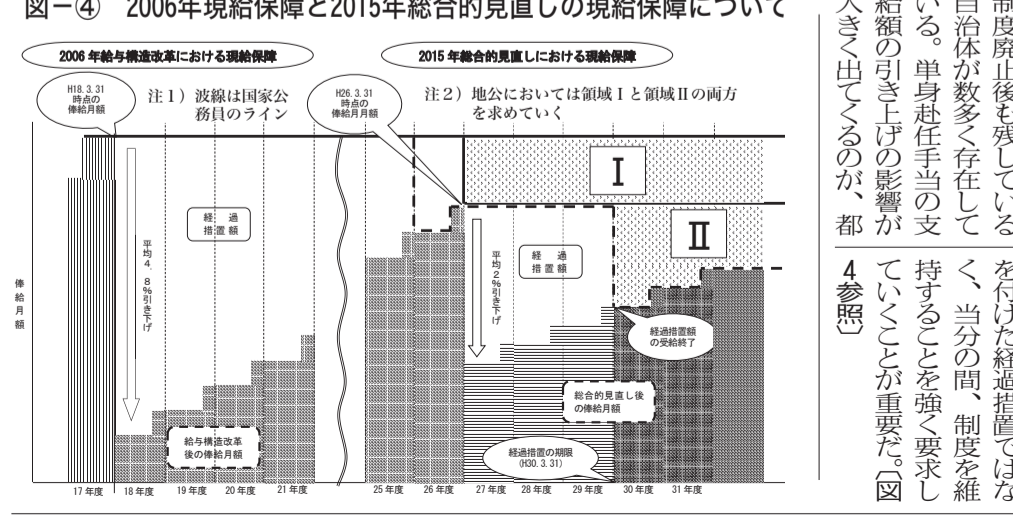
このような仕組みは、国家公務員の給与水準は低下しないどころか、人事異動できない職員の給与原資を異動可能な他の職員へ回すものであり、ほぼ影響が伴わないようにしようとする。こうした配分変更には、地方公務員へは地域手当や広域異動手当・本府省業務調整手当が非支給であるため、適用でき

『総合的見直し』は3年間で完成

こうした『給与制度の総合的見直し』に係る諸結果、その期間を3年間の昇給号俸を一律1号俸抑制するところとなった経過にある。(図2参照)が、この期間を3年間で完成

昇給号俸の抑制は「必要な」

昇給号俸の1号俸抑制については、俸給表の2%引き下げの影響額が小さいことから、現給保障の動向や単身赴任手当の引き上げの原資に変化してきていることに着目して、自治体の取扱いを判断する必要がある。自治体においては、広域異動手当



寒冷地手当は、新たな気象データ(メッシュ平均値)に基づき、北海道における支給地域が変更となる自治体は(図1参照)のとおり、今回の見直しで、支給地から外れる場合は、所定の手当が削減されることとなる。見直しは、2015年4月からとなる。また、支給地域区分の変更は平均気温や積雪量の変動によるものだが、メッシュデータの誤差が最大で35%程度あること、2級地の変更は生活実感から理解できるものではないことを踏まえて、級地区分の低位への変更には反対し、十分な経過措置を自治体当局に求めている必要がある。

号俸の逆転現象は矛盾

号俸増設した号俸への昇給は、あくまでも成績主義によるものであるが、55歳以上の場合は、良好な成績で昇給し、55歳未満の成績で昇給停止となるため、55歳前後の年齢層の兼ね合いから、早く最高号俸へ到達した者が、後から最高号俸へ到達した者から追いついていく可能性がある。これは制度上生じた矛盾であるため、解消するための措置が必要となる。

「現給保障の制度維持」が重要

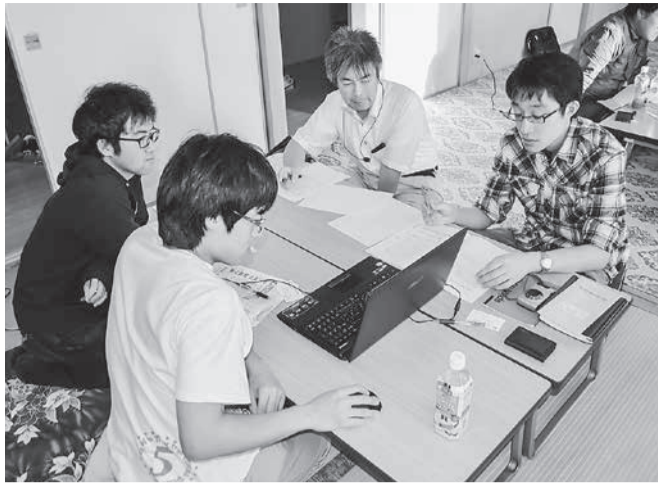
さらに、3年間とされた現給保障の期間だが、多くの自治体においては、2006年の現給保障額が国家公務員の水準と異なっていたために、国の制度廃止後も残っている自治体は数多く存在している。単身赴任手当の支給額の引き上げの影響が大きく出てくるのが、都道府県となるが、市町村においては、単身赴任手当支給の実態は少なく、こうした国公や都道府県職員、市町村職員の実態の違いを踏まえて、期限を付けた経過措置ではなく、当分の間、制度を維持することを強く要求していくことが重要だ。(図4参照)



教宣紙の単組発行実践しよう

留萌・宗谷合同教宣学習会

9月13日から14日、遠別町・生涯学習センターで、「留萌・宗谷地本合同教宣学習会」を開き、13人が参加した。学習会は



グループごとに教宣づくりを実践した=9月13日、遠別町

即実践につながる内容で、レイアウト・記事づくりのポイントを学び、グループごとに教宣紙づくりを実践した

「教宣紙の重要性と教宣紙のつくり方」と題して、引地・道本部教育情報部長が講演した。引地次長は「教宣紙は組合費の領収書であり、組合員に当然発行すべきもの」と強調し、「レイアウトや見出しのつけ方、記事の要約で読んでもらえる教宣紙につながる」と述べ、「情報発信のツールとして、教宣紙の発行を単組で実践してほしい」と呼びかけた。

その後、3グループに分かれて、教宣紙づくりを実践した。

参加者は、苦勞しながらも、それぞれの単組での取り組みを入れながら紙面づくりを実践した。

参加者の声

◆単組で実践

単組で教宣紙が発行されていらない現状だが、組合員に身近につたえるツ



苦前町職 宇佐美友也さん

ールとして役立てることが必要だと感じた。今回学んだことを単組で実践したい。



浜頓別町職 中村 朋也さん

法の選択肢が拡がり、多角的なレイアウトの視点変更から内容が洗練されると感じた。今後は、青年層も含めて講座に参加してもらい、情報共有と運動強化をはかりたい。

◆青年も参加

少人数でもグループで作成することで、表現方

書記同士のつながりから運動前進



決意を述べる、峯垣新議長=9月13日、比布町

道本部書記評議会は、9月12日から13日、比布町「遊湯びっく」で第44回定期総会を開き、43人が参加した。

大出・道本部書記長は基調提起を兼ねてあいさつし、「共済運動というツールを使い、組合員との信頼関係を築いてほしい。そのことが自治労働運動前進につながる。思いを同じくしながら連帯していく」と述べた。

逢坂誠二・前衆議院議員が「暴走する安倍政権」を止めようとの選挙しかなかった」と題して講演した。逢坂さんは、安倍政権がすすめる「戦争のできる国づくり」や、原子力政策などを批判し、「今、労働法制の改悪や交付税の削減など、中央集権型に戻りつつある。阻止するのは選挙だ。来春の統一選を安倍政権に対する反撃の第一歩に

張ってきました。今の日本社会には、貧困、虐待、いじめ、不登校など、子どもたちにとって深刻で待たない課題が山積しており、それらを解決することは簡単ではありませんが、諦める訳にはいきません。

地域の子どもたちが大人になって振り返った時に「ここで生まれ育って本当良かった」と思ってもらえるよう「子どもが第一」のまちづくりに「挑戦」していこうではありませんか。

(札幌市職連・相内利幸)

「均等待遇原則」創ろう

今回の安倍政権の政務や党内人事差が存在している。厚生労働省調査によると、一般労働者の男性の平均賃金を100とすると、一般女性労働者はその7割である。今や、非正規が4割になる状況を見るとパートや臨時、嘱託と言われる分野の女性の平均賃金はさらに低くなっている。党は違っても、登用された女性の方達には、ポストを活用し、さまざまなところで人権を尊重し「均等待遇原則」を創ることに努力してほ

(9月11日東京にて)

あいくみの国会だより



逢坂誠二・前衆議院議員が「暴走する安倍政権」を止めようとの選挙しかなかった」と題して講演した。逢坂さんは、安倍政権がすすめる「戦争のできる国づくり」や、原子力政策などを批判し、「今、労働法制の改悪や交付税の削減など、中央集権型に戻りつつある。阻止するのは選挙だ。来春の統一選を安倍政権に対する反撃の第一歩に

張ってきました。今の日本社会には、貧困、虐待、いじめ、不登校など、子どもたちにとって深刻で待たない課題が山積しており、それらを解決することは簡単ではありませんが、諦める訳にはいきません。

地域の子どもたちが大人になって振り返った時に「ここで生まれ育って本当良かった」と思ってもらえるよう「子どもが第一」のまちづくりに「挑戦」していこうではありませんか。

(札幌市職連・相内利幸)

「均等待遇原則」創ろう

今回の安倍政権の政務や党内人事差が存在している。厚生労働省調査によると、一般労働者の男性の平均賃金を100とすると、一般女性労働者はその7割である。今や、非正規が4割になる状況を見るとパートや臨時、嘱託と言われる分野の女性の平均賃金はさらに低くなっている。党は違っても、登用された女性の方達には、ポストを活用し、さまざまなところで人権を尊重し「均等待遇原則」を創ることに努力してほ

(9月11日東京にて)

「自治研」で市民と地域を考える



職場だより

【上川地方本部発】9月7日、名寄市総合福祉センターふれあい広場で、名寄市職労自治研推進委員会(渡部晃洋推進委員長)主催の「びっくりフリーマーケット」を開きました。

この取り組みは、「限りの資源を大切にしたい」という思いから、不要なものを捨てた

いものを市民が中心となった、フリーマーケットで、市民のリサイクル意識高揚をはかることを目的に毎年開いており、今年で20年目となりました。会場内には、市民の協力によるフリーマーケットが並び、多くの市民が遊休品などを買い求めました。また、同委

員会では焼き鳥、かき氷などを販売するとも「戦争させない全国署名」のブースを設置し、訪れる市民に協力を呼びかけました。

このほか、エコキヤラクター・エコマークコンテストを実施。市内の小中学校に協力を依頼し、夏休み中にデザインを募集

した結果、178点の応募がありました。入賞作品は会場内に展示したほか、市内のごみの不法投棄に関する取り組みを継続していきま

(名寄市職労・書記長・西垣充孝)

チャレンジ! チルドレン・ファースト(最終回)

「子どもが第一」まちづくりに挑戦!

13日の道本部社会福祉評議会総会において「子ども・子育てプロジェクト」が解消されたことに伴い、2010年10月から連載してきた当コラムも最終回を迎えることとなりました。

「子ども・子育て新制度」は待機児童対策や女性の社会進出促進といった社会ニーズに対応する側面が目されがちですが、本来の目的は「すべての子どもの健やかな育ち」を「社会全体で支える」ことであり、そのことを4年間にわたって主

張ってきました。今の日本社会には、貧困、虐待、いじめ、不登校など、子どもたちにとって深刻で待たない課題が山積しており、それらを解決することは簡単ではありませんが、諦める訳にはいきません。

地域の子どもたちが大人になって振り返った時に「ここで生まれ育って本当良かった」と思ってもらえるよう「子どもが第一」のまちづくりに「挑戦」していこうではありませんか。

(札幌市職連・相内利幸)

逢坂誠二・前衆議院議員が「暴走する安倍政権」を止めようとの選挙しかなかった」と題して講演した。逢坂さんは、安倍政権がすすめる「戦争のできる国づくり」や、原子力政策などを批判し、「今、労働法制の改悪や交付税の削減など、中央集権型に戻りつつある。阻止するのは選挙だ。来春の統一選を安倍政権に対する反撃の第一歩に

張ってきました。今の日本社会には、貧困、虐待、いじめ、不登校など、子どもたちにとって深刻で待たない課題が山積しており、それらを解決することは簡単ではありませんが、諦める訳にはいきません。

地域の子どもたちが大人になって振り返った時に「ここで生まれ育って本当良かった」と思ってもらえるよう「子どもが第一」のまちづくりに「挑戦」していこうではありませんか。

(札幌市職連・相内利幸)

忙中余話

歴史と伝統のある道本部青年部長の任を、先日無事に終えることができました。

この間支えていただいた全道の多くの仲間や先輩達に感謝を申し上げます。

着任当初から「仲間と会って話す」「何でも一緒に考え合う」ことを大事にしてきましたが、この1年は本部青年部副部長の任務も重なり、思うように北海道の仲間と関われず、本当に申し訳ない気持ちでいっぱいです。

(瀧口和成)